



掲示板で、「バスケットをやろう！」「プラモデルをつくるよ！」と仲間を募っています。



「障がい者、という人はいないのよ。たまたま障がいを持った一人の人間、がいるだけ」と学生ボランティアに話す石崎さん。

オープンから1年半が経った「ふらっと」で顔なじみになった利用者同士、誘



「今はまだ「ふらっと」のような場所が必要だけど、本当は地域のなかで、障がいの有無に関係なく暮らせるのが理想」と石崎恭子さん。

と「顔を合わせた利用者同士、誘

トをすれば利用者さんに喜んでもらえるかという点。」「何れとも立ち止まらないうえに進んでいくことが大切だと思っ

のです。利用者さん自身には、戸惑い

がなくても誰かと関わりをもつ、流れ

を止めなければいけないのかな？」

と伝えていきます」と秀島さん。

もう一人のスタッフ、石崎恭子さん

は、身体に障がいがあり、車椅子を使っ

て生活しています。「私にも障がいがあ

るから、「ここに来る方の気持ちが分かる

ことはありますが、悩みは人それぞれ。

悩みを言葉にする時には、もう答えは自

分の心にあることが多いものです。だか

ら、そつだよねって、うなずいて聞くだ

けです」と石崎さん。「ここでは障がい

の垣根を越えて本当の自分、素の自分を

出してもらいたいですね。」「ここを

出してもいいですよ。」「ここを

にするのではなくて、じっくり時間をか

けて自分のやりたいことを模索しなが

ら、地域の中でいきいきと暮らしてい

けるようにしてほしい」と思っています。

## 障がいの有無に関わらず いっしょに「余暇」を楽しもう！

～語り、楽しみ、学ぶスペース「ふらっと」～



「ふらっと」がある野口英世青春広場は、まちなか賑わいの拠点。多くの人が訪れるオープンスペースです。

みんなで  
育てる  
地域福祉



会津若松市

取材協力

余暇活動支援センターふらっと

定休日 月曜・木曜  
〒965-0878 会津若松市中町1-23  
TEL(0242)29-2149

「好きな時間に来て、好きな時間に帰

ることができる自由さがいいですね」と

話すのは、利用者の男性。「ふらっと」に通

ううちに、ボランティアで、イベントなど

の運営にも関わるようになってきました。

「ここは自由なだけに、何をしたらいい

のか分からないという人もいます。

来た人が誰でも話題に入れるように、

置いておけばいいんじゃないよという気がつ

けています」と話す男性の言葉からは、

みんなから頼りにされている様子があ

がええます。また、今まで立ち寄る機

### 多くの人と関わりながら 地域に根づいた「ふらっと」に



ボランティアの今川沙由里さんは、会津大学短期大学の2年生。「まずは自分自身が楽しむことで、来てくださる方にも楽しんでもらおうと思っています」。

「ここに来る方は、居場所がほしい、

話を聞いてほしいという方が多いです

ね」と話すのは、スタッフの秀島聖子さ

ん。「利用者の話を聞いて、その方の言

葉を受け入れながら、自分の言葉で応

えるようにしています。私自身も会話

を楽しんでいます」と話します。いつ

も考えているのは、「次に、どんなイベン



「みなさんの『やってみたい』という思いを実現し、最終的には自主活動につなげたい」と話す会津若松市社会福祉課障がい者福祉グループの伊藤健彦主事。

「ふらっと」があるのは、飲食店など

が並ぶ野口英世青春広場の一角、地

元の買い物客や観光客など多くの人

たちでにぎわう場所です。会津若松

市から委託を受けたNPO法人ふれあ

いづすマイルが運営を担い、二人のス

タッフが訪れる人々を迎えています。

障がい者の余暇活動支援が重要な

理由として、会津若松市社会福祉課障

がい者福祉グループの伊藤健彦主事

は、「休日の過ごし方が平日の生活に

大きく影響する」ことをあげます。

作業所やデイケアで規則的な生活

が送れる平日は問題がなくても、休日

になるとお店でトラブルを起こしてし

まったり、人恋しさから携帯電話の悪

質なサイトを利用してしまつなどの実

例があり、以前から福祉関係者から

### 休みの日の過ごし方が 平日にも大きく影響する

障がいのある人たちの余暇活動を充実させるために、昨年会津若松市に開設された「ふらっと」は、中心市街地にある交流スペース。障がい者の「余暇」に焦点を当てた全国でも珍しい取り組みに、注目が集まっています。



毎月発行している「ふらっと通信」は施設や民生委員さんに配布しています。

「ここに来る方は、居場所がほしい、話を聞いてほしいという方が多いです」と話すのは、スタッフの秀島聖子さん。「利用者の話を聞いて、その方の言葉を受け入れながら、自分の言葉で応えるようにしています。私自身も会話を楽しんでいます」と話します。いつも考えているのは、「次に、どんなイベントをすれば利用者さんに喜んでもらえるかという点。」「何れとも立ち止まらないうえに進んでいくことが大切だと思っ

のです。利用者さん自身には、戸惑い

がなくても誰かと関わりをもつ、流れ

を止めなければいけないのかな？」

と伝えていきます」と秀島さん。

もう一人のスタッフ、石崎恭子さん

は、身体に障がいがあり、車椅子を使っ

て生活しています。「私にも障がいがあ

るから、「ここに来る方の気持ちが分かる

ことはありますが、悩みは人それぞれ。

悩みを言葉にする時には、もう答えは自

分の心にあることが多いものです。だか

ら、そつだよねって、うなずいて聞くだ

けです」と石崎さん。「ここでは障がい

の垣根を越えて本当の自分、素の自分を

出してもらいたいですね。」「ここを

出してもいいですよ。」「ここを

にするのではなくて、じっくり時間をか

けて自分のやりたいことを模索しなが

ら、地域の中でいきいきと暮らしてい

けるようにしてほしい」と思っています。

「好きな時間に来て、好きな時間に帰

ることができる自由さがいいですね」と

話すのは、利用者の男性。「ふらっと」に通

ううちに、ボランティアで、イベントなど

の運営にも関わるようになってきました。

「ここは自由なだけに、何をしたらいい

のか分からないという人もいます。

来た人が誰でも話題に入れるように、

置いておけばいいんじゃないよという気がつ

けています」と話す男性の言葉からは、

みんなから頼りにされている様子があ

がええます。また、今まで立ち寄る機

### 顔なじみになった仲間と 誘い合って自主的な活動へ



「ついがんばり過ぎてしまう方には、『もっとゆっくりでもいいじゃない?』と声をかけています」とスタッフの秀島聖子さん。

「何らかの手立てが必要」という声があ

がっていました。そこで、会津若松市で

は既存の「障がい児者社会参加教室開

催事業」と「身体障がい者生活訓練事

業」を統合するとともに、新しい取り組

みとして、いつでも立ち寄れる居場所

づくりを目指して、昨年6月に「ふらっ

と」を立ち上げたのです。

※会津若松市では、障がいのある人が、日常生活や余暇の活動のために外出する際に移動を支援する「ガイドヘルパー派遣事業」を実施しています。